

1 単元名 聞こう、話そう「ズームインたんぼぼ」

2 単元について

(1) 単元観

本学級は、自閉症・情緒障害学級、知的障害学級で構成されている。集団の中で一斉指示を受けて活動できる児童から個別の支援が常に必要な児童まで、様々な姿が見られる。学校生活全般は全員で過ごしているが、教科・活動によって理解度や集団への参加の姿を考慮し、2つのグループを設定して取り組んでいる。国語の学習については、単元の内容により、全員で取り組む場合と2つのグループに分かれて活動する場合がある。本単元は、基本的に8名全員で学習する。全員で取り組むことで、友達の姿をモデルにしたり、友達とのやり取りを楽しんだりすることができると思える。

本学級では、朝の会で日直がスピーチを行っている。「好きな○○」や「今日の朝ご飯」などテーマを決めて話すようにしている。聞き手は、話す友達を見て聞く中で聞く姿勢を身に付けようとしているところである。スピーチを聞いた後の質問や感想で手が挙がる姿や、スピーチをする友達の方を向いて話を聞く姿が増えてきている。帰りの会では、「今日のハッピー」のコーナーを設け、その日によかったことや嬉しかったことについて話す場を設けている。友達の「ハッピー」な気持ちにうなずき、共感しながら聞くようにしている。図書時間の読み聞かせでは、図書館指導員に意識を向け、読み聞かせを視聴する活動を継続している。全員で同じものを見ることが、他の場面でもみんなと一緒に話を聞く姿につながっていくと考える。話し方・聞き方のポイントについては、校内で低学年教室に統一して掲示している「聞き方あいうえお」「話し方かきくけこ」を本学級の児童用にわかりやすい形にして掲示し、日常的に取り上げている。声の大きさについては、「声のものさし」の掲示物を折に触れて取り上げ、自分の声の大きさを意識し、コントロールする練習をしている。

本単元では、「ズームインたんぼぼ」という番組作りを通して、話すことや聞くことへの意識を高め、自分のことを友達に話したり友達の話を聞いたりする言語活動を行う。話し手も聞き手も番組の出演者となることで、双方が意欲的に取り組めると考える。わかりやすく楽しい番組にするために、発表者の話し方だけでなく、聞き手の聞き方にもポイントがあることを意識しながら、活動を進めていく。話題は、「自分のニュース」として、好きなことや得意なこと以外にも「実は○○をしたことがある（経験したこと）」「実は○○をもっている」など他の話題にも広げ、ニュースとして取り上げやすくする。話すだけでなく、写真や実演を添えることも入れていきたい。作った番組は、校内の先生方に見せるというゴールに向かって学習する。一緒に視聴したときに、そこで生まれる会話がさらに「話したい」「聞きたい」という意欲につながることを期待している。

(2) 単元で身に付けさせたい力

本単元では、自分のことを友達に話したり、友達の話を聞いたりする活動を通して、「自分のことや自分が考えていることを伝える力」「相手を意識して話を聞く力」を身に付けさせたい。これは、児童が将来社会で自立した生活を送ったり支援を受けたりする際に役立つ力である。まずは、学校生活で一番身近な学級の友達や教師に話すこと、そして話が相手に伝わった手応えを感じることで、友達や教師の話に関心を寄せて聞くことといった経験を十分に積み重ねていきたい。自分のことを友達に話し、聞いてもらうことが、自分への自信にもつながると考える。自信がつくと「話したい」「友達の話も聞きたい」という気持ちが一層高まるであろう。さらに、学級から一歩外に出た大きな集団でやり取りをしていく力につなげていきたい。

(3) 単元の目標

- 友達と関わり合いながら、楽しく学習できる。 (国語への関心・意欲・態度)
- 自分のことを、友達にわかるように話すことができる。 (話すこと)
- 友達に関心をもち、話を聞くことができる。 (聞くこと)

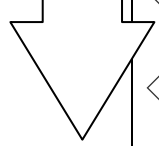
3 単元の目標

- 友達と関わり合いながら、楽しく学習できる。 (国語への関心・意欲・態度)
- 自分のことを、友達にわかるように話すことができる。 (話すこと)
- 友達に関心をもち、話を聞くことができる。 (聞くこと)

4 指導計画 (10 時間扱い)

次	時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1	1	<p>○教師が作った番組 (ビデオ) を視聴し、「番組を作って先生方に見せる」という学習の見通しをもつ。</p> <p>○番組作りに必要なことや準備する物について話し合う。</p> <p>○オープニング部分を撮影する。</p>	<p>・学習のゴールがわかるよう、教師が作った番組を見せ、イメージがもてるようにする。</p> <p>・できあがった番組は、校内の先生方に見せることを伝える。</p> <p>・ビデオカメラを用意し、番組作りの雰囲気を出す。</p> <p>・番組の流れがわかるように図を示す。</p> <p>・番組作りには、話す人と話を聞く人の役目が重要であることを知らせる。</p> <p>◇わかりやすく楽しい番組を作ろうという意欲をもち、進んで学習に参加している。 (関心・意欲・態度)</p> <p>◇教師の実演を見て、番組作りは話し方や聞き方も重要とわかっている。(話すこと・聞くこと)</p>
2	2 3 4 本 時	<p>○自分の話題を「ニュースカード」に書き、番組作りに向けて練習する。</p> <p>・実際にニュースを発表したり聞いたりし、番組作りを楽しむ。</p>	<p>・自分のニュースを考えにくい児童には、好きな物や得意なこと、これまでに自分に起こった出来事などヒント (ニュースの種) を示す。</p> <p>・話し始めの文を複数示しておく。実際に発表する言葉を書くようにする。</p> <p>・理由も書けるように枠を用意しておく。</p> <p>・発表の言葉を考えるのが難しい児童には、発表の言葉があらかじめ書いてある一部穴埋め式のカードを使うようにする。</p> <p>・自分のニュースがわからない児童には、教師が質問し、言葉を引き出す。質問に答えられない児童には、教師がカードに書く。</p> <p>・国語の時間以外でも日常的に「ニュースカード」を書けるように、カードを用意しておく。</p> <p>◇楽しんで話したり聞いたりしている。 (話すこと・聞くこと)</p> <p>◇自分の話題を決め、カードに書いている。 (書くこと)</p>

ビデオ撮影と視聴 (自分話す姿や聞く姿が目に見える形を繰り返す。)



5 6 7	<p>○話し方・聞き方のポイントをもとに、楽しい番組作りに向けて練習する。</p> <p>・自分のめあて（ポイント）を決めて練習をする。</p>	ビデオ撮影と視聴	<p>・「話す」「聞く」ことにポイントをおいた番組を見せ、わかりやすく楽しい番組について考えさせる。</p> <p>・発表の内容が伝わりやすいように、写真など好きなものの絵や画像が必要な場合は用意するようにする。</p> <p>・話し方・聞き方のポイントを掲示しておき、どのポイントに取り組むのかネームカードで示し、分かるようにしておく。</p> <p>・活動量を確保するために、グループに分かれて練習するようにする。</p> <p>・ポイントに合う姿が見られた時には、ビデオで確認し、他の児童の取組みにも広げられるようにする。</p> <p>◇話し方・聞き方のポイントを意識して、発表の練習をしている。（話すこと・聞くこと）</p>
8 9	<p>○番組作りをする。</p> <p>・話し方のポイントをもとに、一人ずつ自分のニュースを発表する。</p> <p>・聞き方のポイントをもとに発表を聞く。</p>		<p>・話し方・聞き方のポイントを掲示し、番組作りの前に確認する。</p> <p>・ポイントに合う姿や心の残った部分を具体的に振り返るようにする。</p> <p>◇友達に伝わるように発表したり、友達に関心を寄せながら話を聞いたりしている。（関心・意欲・態度）</p> <p>◇話し方のポイントに合うように発表をしたり発表を聞いたりしている。（話すこと・聞くこと）</p>
3 10	<p>○校内の先生方に向けて、番組を発表する。</p> <p>・番組の視聴を通して、先生方のやりとりを楽しむ。</p>		<p>・たんぼぼ児童がポイントにして取り組んだことを伝える。</p> <p>◇先生方の質問に答えることができる。（話すこと・聞くこと）</p>

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- < A > ○離席せずに学習できる。
- 教師が作った番組の映像を見ることができる。
- 挨拶を返すことができる。
- 内容が分かって発表することができる。
- きまった台詞を話すことができる。
- 友達の質問の後に答えることができる。

- < B > 離席せずに学習できる。
- 友達の動きを見てまねをしながら活動に参加できる。
- 教師が作った番組の映像を見ることができる。
- ニュースカードを見て話すことができる。
- 友達の質問の後に答えることができる。
- < C > 友達と一緒に番組作りを楽しむことができる。
- 聞き手に聞こえるように話すことができる。
- 自分のことを理由や説明を添えて話せる。
- 話し手の伝えたいことに気を付けて聞くことができる。
- < D > 友達と一緒に番組作りを楽しむことができる。
- 聞き手を見て話すことができる。
- 自分のことを理由や説明を添えて話せる。
- 話し手の伝えたいことに気を付けて聞くことができる。
- < E > 友達と一緒に番組作りの練習を楽しむことができる。
- 聞き手を見て話すことができる。
- 話し手を見て話を聞くことができる。
- < F > 離席せずに学習できる。
- 友達に興味を持って話を聞くことができる。
- 自分のことを理由や説明を添えて話せる。
- 話し手の伝えたいことに気を付けて聞くことができる。
- < G > 友達と一緒に番組作りの練習を楽しむことができる。
- 聞き手を見て話すことができる。
- 話し手を見て聞くことができる。
- < H > 友達と一緒に番組作りの練習を楽しむことができる。
- 聞き手を見て話すことができる。
- 自分のことを理由や説明を添えて話せる。
- 話し手の伝えたいことに気を付けて聞くことができる。

(2) 本時の学習活動

本時は、まず自分が話すニュースの話題を決め、ニュースカードに書く。自分のニュースは、話題の例（ニュースの種）を挙げてそれを参考に決めていく。難しい児童については、教師の方でニュースの原稿を作っておく。次に、ニュースカードの内容をもとに、番組作りに向けて実際に話したり聞いたりすることを楽しむ。声の大きさや発音、言葉づかいなどの「話す」「聞く」際の具体的なポイントを意識して活動するのではなく、相手を意識して話したり聞いたりしていく。活動を繰り返す中で、番組の流れをつかんだり「話す」「聞く」ことが楽しいと感じたりできればよいと考える。決まった言葉でなくても、友達に感想や質問を寄せたりそれに対して答えたりする中で、友達との関わりにつなげていきたい。

(3) 研究主題との関わり

楽しい授業を作るための支援・指導の工夫

○視聴覚機器の利用

本学級の児童は、テレビに映像が出ると興味をもって見る。テレビ番組を作るという活動を取り上げることで、自分の姿がテレビに映り、自分の話す姿や聞く姿が目に見える形になる。それを繰り返して展開が、楽しい活動につながると考える。練習では、児童の姿を撮影し、話し方や聞き方のポイントに沿って確認することで、自分の発表の姿を意識できるようにしたい。全体での場での視聴では、ポイントに合う姿を見つけてみんなで認めるようにし、話すことや聞くことが楽しくなるよう、自信や意欲につなげていきたい。

○個に合わせたニュースカード

ニュースカードは、楽しく「話す」ための手がかりとしたい。個によって、ニュースのキーワードだけを書き込むものや発表の台詞そのものになるものを準備しておく。

<A・B児>

話す台詞が決まっている方が話しやすく、友達とのやり取りにつながれると考えられる。書くことよりも話すことがねらいであるので、教師がニュースカードを書く。

<C・D・E・F・G・H児>

ニュースの話題が思いつかない児童は、「ニュースの種」（ニュースの話題となる例）を参考に自分のニュースを決め、それに合ったニュースカードを書くようにする。カードの大きさは、個によって書きやすいものを選べるようにする。話す台詞をそのまま全て書くと、カードを正確に「読む」ことに意識が向き、相手を意識して「話す」という姿につながらないと考えられるので、一部穴埋め式やキーワードだけ書くカードを用意しておく。

○聞き方・話し方のポイント（「聞き方あいうえお」「話し方かきくけこ」）

本時では聞き方や話し方のポイントについては重点としないが、児童が上手にできた場合の確認に使い、次時の学習へつなげていきたい。

「聞き方あいうえお」

「話し方かきくけこ」

あ あいてを見て

か かおを見て

い いっしょうけんめい

き 聞こえる声で

う うなずきながら

く くちを大きく開けて

え えがおで

け けっしていそがず

お おわりまで

こ ことばづかいに気をつけて

○個に合った発表の形態

個人差の大きい集団であることから、発表も個々に合った形となる。

<A・B児>

教師のサポートが必要である。教師の言葉の復唱やカードを見て話すようにする。聞き手に内容を伝えやすくするために、マイクを使って話し、写真や実物も使う。「ぼくの好きなものを知っていますか。」という問いかけに対してみんなで「～くんの好きな食べ物は何ですか。」と聞くようにする。それに対して「ぼくの好きな食べ物は○○です。」といった定型文を作っておくことで、友達とのやり取りができるようにする。

<C・D・E・F・G・H児>

声が小さい児童はマイクを使い、自信をもって発表できるようにする。友達を意識できるよう、最終的にはなるべくカードを見ないで話せるようにしたい。聞き手に対して「感想や聞きたいことはありますか。」と自分で問いかけ、友達とのやり取りにつなげられるようにする。

(4) 本時の展開 (4 / 10)

学習活動	指導や支援の手立て (○) 評価 (◇)	教材・教具
○はじめの挨拶をする。	○前面に集中し、互いの顔が見えやすくするように、座席は半円にする。 ・「手ぺた」「足ぺた」「おへそビーム」 ○T2は、A児に寄り添い、前面に意識を向けられるようにする。 ○学習スケジュールにマグネットをつけ、学習の進行状況がわかるようにする。	スケジュールカード・マグネット
○本時の学習の流れとめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ニュースを決めて番組を作ってみよう。 </div> ○自分のニュースを決める。 ・話題を決め、ニュースカードに書く。 ○自分のニュースを発表する。 ・セッティングをする。 ・教師の実演番組を見る。 ・順番にニュースを話す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <A/B> 全「○○さんに・・・ズームイン」 発「ぼくの好きな○○を 知っていますか。」 全「～くんの好きな○○を 教えてください。」 発「○○です。」 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ニュースを決めて番組を作ってみよう。 </div> ○自分のニュースを見つけやすいように、好きなことや得意なこと、これまでに自分に起こった出来事などのヒント（ニュースの種類）を示す。 ○自分のニュースがわからない児童には、教師が質問し、言葉を引き出す。 ○質問に答えられない児童には、教師がカードに書く。 ○自分の椅子を持ち移動することを伝える。 ○教師の実演番組をもとに、ニュースのイメージを確認できるようにする。 ○手本にしたいところをまねてもよいことを伝える。 ○T2は聞き手のサポートをする。 ○T1は司会をし、話し手（発表児童）のサポートをする。 [A/B] ○立つ位置を足型で示し、よい姿勢で話せるようにする。	ニュースカード ズームインたんぼの看板・発表者の机・司会の机 TV・ビデオ マイク 足形

<p><C/D/E/F/G/H> 全「〇〇さんに・・・ズームイン」 発「ぼくのニュースです。 ぼくは実は・・・です。」 全「(拍手など反応)」 発「感想や聞きたいことは ありますか。」 発「ぼくのニュースを終わります。」</p>	<p>○ニュースカードの文字を指さし、読んでい るところをわかりやすくする。 ○聞き手とのやり取りができるように、話す ときに合図を送る。 ○感想や質問を教師が聞き手に聞く。 [C/D/E/F/G/H] ○声が小さい場合はマイクを使う。 ○発表する言葉が分からない時は、「ニュー スカード」を見て確認するように促す。 ○児童の様子を撮影して確認する中で、よく できたところを認めるようにする。 ◇楽しんで話したり聞いたりしている。 (話すこと・聞くこと) ◇自分の話題を決め、カードに書いている。 ◇自分の台詞を話している。(A/B) (話すこと) ◇友達の質問の後に答えることができる。 (A/B) (聞くこと) ◇聞き手に聞こえるように話している。 (C) (話すこと) ◇聞き手を見て話している。 (D/E/G/H) (話すこと) ◇聞き手に聞こえる声で話している。 (D/G/H) (話すこと) ◇自分のニュースを理由や説明を添えて話 している。(C/D/F/H) (話すこと) ◇話し手の伝えたいことに気を付けて聞い ている。(C/D/F/H) (聞くこと) ◇話し手を見て聞いている。(E/G) (聞くこと) ◇友達に興味を持って話を聞いている。 (F) (聞くこと) ◇友達と一緒に番組作りの練習を楽しむこ とができる。(関心・意欲・態度)</p>	<p>ビデオ・TV 声のものさし掲示 話し方・聞き方の ポイント掲示 ビデオ・TV</p>
<p>○学習の振り返りをする。 ・ニュースの内容を振り返り、「だ れだれクイズ」を解く。 ・楽しい活動であったか、振り返り、 表情で自分の気持ちを表す。</p>	<p>○ニュースの内容をクイズにし、本時の学習 を振り返られるようにする。 ○A/Bは、表情での振り返りをする。</p>	<p>表情カード</p>
<p>○終わりのあいさつをする。</p>	<p>○始めのあいさつと同じようにする。</p>	

